

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援、放課後等デイサービスの多機能型事業所で運営をしており、他事業として生活介護も運営しているため、一人の児童に長期間関わることができ、児童、保護者ともに安心して利用することができる。	・就学前から児童との関わることができるため、就学時に必要な準備も利用児童や保護者のベースに合わせて行うことができる。 ・入学後、卒業後も保護者や先生と細かく連携、情報共有を行うことができている。	他事業所や学校、療育センター、保育所等との関わり、連携を増やし、弊所以外との情報共有を増やしていくことで、児童・保護者がより安心して利用していただけるよう取り組んでいく。
2	重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービスも運営しており、重度の障害児を受け入れることができ、医療的ケアも実施できる。	常に看護師がいるため、人工呼吸器を使用している重症心身障害児や痰吸引が必要な児童も安心して利用できる。 装具やプレーリーなどを専門職の指導のもと装着し、拘縮や側弯を予防している。プログラムでは座位や立位をとって身体を動かしている。	事例検討を行うことが少ないため、積極的に事例検討を行い、様々な職種から意見や情報をもらい、療育に活かしていけるよう取り組んでいく。
3	理学療法士、保育士、公認心理士等の専門職が療育・支援を行っている。	・各専門職がプログラムの作成に関わっているため、専門的な支援を行うことができる。また、児童指導員や指導員も専門職の指導の下支援を行っている。 ・一人ひとりのアセスメントを各専門職の視点で行うことができている。	個別療育では専門的支援実施計画書を作成し、計画書に沿って支援を行っていけるよう今後目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少なかった。	今年度も放課後等児童クラブや児童館との関わりがほとんどなく、情報を共有したり連携をとることができなかった。 夏祭りや餅つき大会をする前は、通ったら見える看板にチラシを貼ったりしたが、今年度も参加者が少なかった。	散歩や買い物など、外出した際のショッピングモールや公園等で、安全面に配慮しながら少しずつ地域のこどもとの交流を行っていく。 夏祭りや餅つき大会のチラシを作成し、地域住民の方に配るなどして、参加人数を増やしていく。
2	父母の会の活動の支援が行えていなかった。また、保護者会や餅つき、夏祭り等のイベントを行っていたが、保護者に十分に認知されていなかった。	年間スケジュールやイベント前のちらしの配布、広報誌等、出来る限り発信はしていたつもりだったが、評価としてどちらともいえないやわからないとの意見があった。	保護者との連絡用にICTを導入し、よりわかりやすくイベントの発信が行えるよう検討が必要と感じた。 また、イベント中の写真もすぐに保護者やHPに載せられるようにしていかなければいけないと感じた。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会がなかった。	様々な障害、特性をもつ児童に利用いただいており、それぞれ課題も違うため、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的かどうかの検討が必要。	毎年行っている保護者会を通して交流を深めながら、各家庭の状況や児童の課題や支援について情報を共有し、行ってほしい研修等を聴取して今後開催していけるよう取り組んでいく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU

公表日 年月日 2026年3月25日

利用児童数 年月日 2026年3月25日

回収数 20

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1				評価は高いため、今後もスペースを十分に確保した状態でサービスを継続していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1		2		職員は十分に配置されているが、保護者からは日々の職員の配置がわからないことがあると思われるので、共有できるよう検討していく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19			1		評価は高いため、今後も障害特性に応じた環境づくりに配慮できるよう努める。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	2				どちらともいえないという意見があったため、より清潔で心地よく過ごせる空間になるよう目指していく。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19			1	心理士等、発達障害に詳しい方がいると相談しやすいと思う	心理士は在籍しているが、保護者へのフィードバックができていないことがあるため、行っていけるよう努める。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	2				どちらともいえないという意見もあったため、プログラムについての説明や行った内容を保護者にわかりやすく伝えていけるよう努める。
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	1				前年よりも評価が高く、今後も児童や保護者のニーズや課題に沿った計画を作成していく。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19			1		「本人支援」については、継続して個別支援計画に5領域を取り入れて実際の支援でも実施している。今年度は「移行支援」が必要な利用児童がおられ、弊社の生活介護への連携に努めた。今後も継続して具体的な支援内容を設定できるよう目指す。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	1		2		どちらともいえない、わからないとの意見があり、もっと計画に沿った支援が行えるよう目指していく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17	2		1		プログラムは、その日利用される児童に応じて変更しており、行った内容をノートに記録して固定化しないよう気を付けているが、どちらともいえない、わからないとの意見もあるため、検討していく。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	7	1	2	10		放課後児童クラブや児童館との交流はまだできていないため、今後していけるよう検討していく。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					今後も契約時に運営規程や重要事項について丁寧に説明するよう努めていく。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	1				個別支援計画を提示しながら支援内容について説明している。モニタリング時にも、個別支援報告書を独自に作成し、前回の個別支援計画を結果について説明している。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	4	1	2		家族支援が十分行えていない方もいるため、機会を増やしていく。また、保護者も参加できる研修会も今後企画していく。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1				連絡帳や送迎時にその日の出来事について報告をしており、今後も継続して共通理解に努めていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	2				モニタリングにて面談を行っており、送迎時にも相談等をしやすい体制づくりを目指していく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	2		1		児童の利益を常に優先しており、共感的な関わりの中で児童にも保護者の方にも安心して過ごしていただけるよう今後も努めていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	3	1	4		毎年保護者会や餅つき大会や夏祭りを行っており、ご家族やきょうだいを招待しているが、参加できていない方もおられるため、評価が分かれたと思われる。皆様に参加していただけるよう今後検討していく。
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			1		相談や苦情窓口については契約時に重要事項説明書を説明している。前年度より評価が高いため、今後も周知徹底して適切な対応ができるよう目指す。
	20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20					高い評価をいただいたため、今後も意思疎通、情報伝達のための配慮ができるよう努めていく。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	2			2	もっと気軽に写真などで様子が見られるとうれしい。四半期に一度、BILD通信を発行しているが、ICTの導入を検討し、もっと気軽に利用中の様子を発信できるよう目指す。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	1		1	HPや広報誌で写真を載せる際は載せてもいいのかどうかを確認している。今後も個人情報の流出には十分注意し、徹底していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		4	それぞれマニュアル等は策定しており、研修、訓練等も実施しているが、まだ保護者への周知が不十分であると感じるため、今後も周知・説明に努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15			5	安全計画に記載し、年2回以上訓練を実施しているが、知っていただけていない保護者もおられるため、周知徹底をはかる。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		1	今後も安全計画に基づき、設備の点検を行うと共に、防災訓練含め、避難所、備蓄品などの確認に努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17			3	作成されたマニュアルに沿って、事故発生時の対応を行っており、事故発生後の報告書の提出や行政への連絡も行っている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20				高い評価をいただいております。今後も安心して通所していただけるよう努めていく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	20				今後も楽しいと思っていただけるような支援を行っていただけるよう目指す。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20				もう少し預かってくれる時間が長いと買い物に出やすく助かる いつも様子を教えてくださいるのでよくわかります 利用時間については現在は変更が難しいものの、満足していただける支援ができるよう努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU					公表日	2026年 3月 25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		・利用定員のスペースは確保されていると感じる	引き続き、スペースがとれるように配置などに行っていく	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	2	・職員は児童に対して十分配置されていると感じる	人の目が少ないと感じたときは、声をかけあいながら同時に行動しないようにしていく			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		・バギーや車椅子が十分入るエレベーターがあり、トイレも後方から介助できるものや、バギーごとは入れるものもあり、バリアフリーに配慮されている。	エレベーターに乗せる際など時間がかかると判断したら、一度ブレーキをかけて開けるを押して行うが、人を呼んでボタンを押してもらおう			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	・感染症対策として、消毒や換気時間を毎時行っており、清潔に保たれている。生活空間としては、活動をするときはマットやハンモックを出したりと活動に合わせて環境整備を行っている。	イレギュラーがあるものの、前もって準備をすることでスムーズに支援を行えるようにしていく。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		・児童の状態に応じ、別の部屋への移動等実施している ・3階フロアでクールダウンや全体で身体を動かすことができる	スペースも考えながらバーテンションの変更を検討していく			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	4	・広く職員が参画するために話し合いの機会を増やす必要があると感じる	定期的な面談の中で目標を設定したりしているが、日々の中でも行えるようにしていく			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	・保護者向け評価表の集計表を元に会議を行い、意向を確認し、業務改善ができるように努めている	保護者向けの評価表は継続して配布し、意向を把握して業務改善につなげていく			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	・何か変化があれば定期的に会議を行い、意見交換を行っている	職員との意見交換を定期的に行い、業務改善につなげる			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	5	・第三者による外部評価はまだ行っていない	検討していく			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・スタッフ間での技術や支援の向上をはかりたいと思った際、どのように上司に伝えればよいか迷う	日々の業務の中で、職員が研修に参加しやすい状況を作れるようにしていく			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	2	・HPにプログラムやイベント等を記載しており、いつでも見られるようになっている	今後も継続して支援プログラムを作成し、公表していく			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		・利用前のアセスメントや6か月ごとのモニタリングで児童と保護者のニーズ、課題を把握し、分析したうえで個別支援計画書を作成している。	今後もモニタリングを徹底し、児童、保護者のニーズを分析したうえで支援計画を作成していく			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	1	・個別支援計画を作成するにあたり、児童に関わっているスタッフから話を聞き、意見を出し合っている。	今後も計画作成の際には、スタッフからの意見を聞き、共通理解の下で検討していく			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1	・計画の共有は十分ではないと感じるが、日々の児童の様子について話し合い、支援を考える機会は持っていると思う	会議に入れなかったスタッフに関しても説明をしていく			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	2	・連絡帳や日報を用いて日々の利用している状況を記載している。	連絡帳や看護日報などに記載し、共有するようにしている			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	1	・計画を作成する際には、子どもの発達特性や強み、課題を踏まえ、生活や学習、社会性などの力を伸ばせるよう本人支援を中心に作成している。また、進学・進級・将来の生活に向けた移行支援の内容も学年によってご家族と相談しながら支援内容に組み込んでいる。	今後も個別支援計画の中に盛り込むことで設定するようにしていく			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	1	・同じプログラムでも発展させていけるように意見が増えてきたと感じる	日々の中で、話をしながら立案して、試して改善したりしながら行っている			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		・プログラムを決めるとき、前回～一週間前までの記録を見てから検討する等の工夫をしている	日々の中で、話をしながら立案して、試して改善したりしながら行っている			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12		・児童の人数やその日の利用児童の特性に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせ支援を実施している。	早帰りの日ができるが、遅い時間の来所は個別が難しいこともあるので検討していく			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	・支援中に話し合いができることがある	朝の朝礼の際に話せる内容を考えて行っていく			

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	4	・振り返りの機会を増やせたらと思う	送迎後に話をする時間を作るのが難しいこともあるが、必要に応じて振り返り会議を行っていく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	2	・連絡帳や日報に日々の記録の記載は徹底しており、気になることがあればスタッフ同士話し合っている。	記録を確認しながら、今後の支援へとつなげられるように時間を確保していく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		・6か月毎にモニタリングを行っており、現在の状況、本人や保護者のニーズを再確認し、個別支援計画の内容に反映している。	これからも継続して行っていく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	10	2	・児童の日常生活の充実のために毎月作成する壁画などの創作活動や、余暇の提供をしている。また、餅つきや夏祭りなどのイベントを行い、地域交流も行っている。	4つの基本活動をよく理解していないスタッフもいるため、知識の共有を行いながら支援を行っていく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	1	・児童と一緒に考える、児童に聞いてみるということを意識的に行っている	スタッフが決めるのではなく、可能な限り児童に聞いて一緒に考えられるよう工夫していく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	1	・サービス担当者会議には、児童だけでなく家庭の状況なども理解している管理者や児童発達管理責任者が参画している。	理解した職員が参画している
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	1	・医療ケアのある児童は主治医から指示書に記載していただいでおり、リハ入院された児童については、連絡をとりて見学に行ったり、退院後はNsセラピストからサマリーをいただいでいる。	今後も連携して行っていく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	1	・学校とは頻りに連絡を取り合っており、お互い見学を行っている。また、送迎時にその日の児童の状況について確認している。年間計画や行事はHPなどで確認している。	学校との情報共有を継続して行い、スムーズに連絡調整ができるように今後も努めていく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	3	・保育所や幼稚園、認定こども園との情報共有は十分にできているとは言えない。	保育所や幼稚園等との情報共有はあまりできていないため、今後は連携できるような環境を作っていく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	12		・卒業後に弊社が運営している生活介護に移行される場合は詳細な情報を提供し、頻りに見学等を実施している。	重度の障害児が多いため、卒業後の移行先への情報共有は徹底していく
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	4	・児童発達支援センターとの連携は十分とは言えない	相談支援事業所だけでなく、児童発達支援センターとの連携を打診していく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	6	・児童クラブや児童館との交流はないが、地域の児童も参加可能な夏祭りや餅つき大会などのイベントで交流をはかっている。	普段からやり取りをしていないので、やりとりをする機会を設けられるようにしていく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	2	・自立支援協議会に参加している。	今後も積極的に参加し、協議会との関係性を深めていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		・送迎時に保護者に日々の状況を報告しており、利用中に気になることがあれば電話等で確認するようにしている。	送迎時などに情報共有をしているので、今後も継続していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	4	・家族支援プログラムは実施できていないが、虐待委員会では保護者に委員になっていただき、参加していただいている。	現状としては、特に家族に対する研修は行っていないので、機会を設ける取り組みを検討していく
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		・利用前に運営規程やプログラム、年間予定、利用者負担については丁寧に説明を行っている。	説明する職員がしっかりと理解して伝えられるようにしていく
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		・モニタリングにて、本人とご家族の意思、ニーズを確認しており、本人の家や学校での様子も聴取したうえで、児童にとって最善の支援ができるよう努めている。	普段のやり取りからも相談などあれば、面談をする機会を設けたりしている
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12		・支援計画は送迎時に時間をいただき、しっかりと説明し、同意を得たうえでサインをいただいている。	今後もしっかりと理解した職員が説明を行い、同意を得るよう徹底していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		・家族から、利用児童だけでなく、兄弟や姉妹の悩みについても時々相談を受けている。管理者や児童発達支援管理責任者が対応を行っている。	普段のやり取りからも相談などあれば、面談をする機会を設けたりしている
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	1	・毎年保護者会を実施している。また、夏祭りや餅つき大会でも保護者同士の交流をはかっており、きょうだいも参加されるので、児童同士で遊んだりしている。	今後も継続していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		・苦情についてはあまりないが、児童や保護者からもちょうこうしてほしい等の希望があれば迅速に対応している。	保護者から相談があればスムーズに解決できるように取り組んでいる
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		・4半期に一度BILD通信を発行しており、活動内容や研修内容を発信している。HPにも更新情報を掲載している。	今後も継続していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	1	・職員の採用前に機密事項についての書類にサインをいただいでおり、今回、退職後の個人情報保護について記載したのもサインをもらうことになった。	引き続き、留意して取り扱っていく

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		・利用児童の意思疎通や情報伝達については、常に課題として挙げられ、計画書にも記載し、配慮を行っている。	利用者それぞれの特性を理解したり、保護者への対応をスタッフ間でも共有して配慮するようにしていく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	1	・夏祭りや餅つき大会や地域住民も来ていた だけのよう張り紙やチラシを作成している。	引き続きイベントを行っていく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	・全てのマニュアルは作成しており、研修、訓練も実施している。しかし、ご家族への周知が十分ではない。	マニュアルに関しては、更新しながらHPにて提示していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		・BCPは作成しており、決められた訓練、研修をおこなっている。また、備蓄用の倉庫を設置し、災害時の備えを十分に行っている。	研修を定期的に行っていく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		・服薬情報、てんかん発作については、事前にアセスメントを行っており、特に医療ケアが必要な児童については、少しでも服薬内容や発作内容に変化があれば、連絡を取り合うようにしている。	連絡帳などのやりとりで確認しているので今後も続けていく
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		・「発作があった」だけではなく、いつどこでどんな発作がどのくらいあったかを確認するようにしている	食事の際など環境を整えて行っていく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		安全計画を作成しており、必要な研修や訓練を行っている。安全管理については十分注意している。	継続して安全計画を作成し、決められた研修や訓練以外にも気になる必要な措置を講じられるようにしていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		・避難訓練等があればBILD通信や日々の記録にてご家族に伝えている。	広報誌等で伝えているが、送迎時の会話や連絡帳等、もっと周知できるように検討していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	2	・あまり書けていない ・すぐに報告するとともになぜ起こったのか、再発防止のためにどうすればよいかをできる限りその日の間に話し合えるようにしている	ヒヤリハット報告書の数を増やし、定期的にヒヤリハットについて事業所内で共有することで再発防止ができるよう努めていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		・虐待を防止するために年2回以上虐待防止研修を行っている。	定期的に研修を行っていく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11	1	・身体拘束は行っていない。身体拘束についての研修は毎年実施しており、どんな時にやむを得ず行うことになるか等を周知している。	定期的に研修を行っていく	